

・開催日時	: 2013年5月15日(水) 10:00~11:30
・出席者	: 代表取締役社長 竹添 昇 取締役専務執行役員(加工事業本部長) 内田 幸次 取締役常務執行役員(グループ経営本部長、経理財務部・IT戦略部担当) 畑 佳秀 取締役常務執行役員(食肉事業本部長) 末澤 壽一 取締役執行役員(関連企業本部長) 川村 浩二

【質疑応答】

<全体>

Q1) ROEや資産回転率の進捗と今後の方向性について教えてほしい。

A1) 営業利益率を高めることで当期純利益率を上げ、ROEを向上させたい。その為には営業利益率4%を目指し、次のステップで5%を目指す。成長戦略による売上拡大を図るが、選択と集中を行い総資産の回転率を高めていく。

Q2) ROE7%の目標達成の為に補完的な自己株取得を行う認識で良いのか?

A2) まずは利益率を高めてROEを向上させるのが基本のスタンス。CBの転換などもあり、補完的に自己株取得などで総還元性向を高める事もセットで考えている。

Q3) 全社・消去の営業利益計画は?

A3) 全社・消去のうち、変動要因としては、連結間取引による棚卸資産に含まれる未実現利益の控除など消去調整であるが、来期はフラットで見ている。

Q4) 棚卸資産在庫状況の現状と今後の改善を教えてほしい。

A4) 為替等の影響もあり、計画をオーバーしたが、今後は1,000億円を切るように進めていきたい。

Q5) 日本ハムグループのアジアでの鶏肉事業展開は、どのように発展させていくのか。

A5) 以前より取り組みは行っており、今後もものづくり企業として事業を展開していく。ミャンマーでは養鶏事業から始め、5年後には加工事業を展開していく。

<加工事業>

Q6) 加工事業の営業利益率が前期2.8%と、ブランドメーカーとしては低いと思うが?

A6) あるべき姿は営業利益率5%以上だが、まずは3~3.5%を達成したい。

Q7) 加工食品の原料高騰による、67億円のコストアップの根拠は?

A7) 68期1~3月の実績推移と足元の状況からコストアップの金額を計算した。お客様にとっての商品価値を失わない事を前提として対応を検討していく。

<食肉事業>

Q8) 食肉の上期営業利益47億円の改善計画を詳しく教えてほしい。

A8) 国産豚肉については想定を上回る相場になりそうだが、国産鶏肉については想定を下回る可能性も踏まえて考えている。トータルで目標を達成していく。

Q 9) 国内フード会社の今後の見通しを教えてください。

A 9) 前期は数量ベースで103%伸長した。国産豚肉・鶏肉は競争が厳しい状況にあるが、シェアの低い国産牛肉については取り組みを強化し、トータルで売上・収益の向上を目指す。

Q 10) 鶏肉相場が低調に推移する中、飼料価格上昇によるコストアップもあり、ファーム事業の収益改善をどのように実施していくのか。

A 10) コスト削減努力は続けるが、鶏のファームで出たマイナス分はファーム事業トータルでカバーする。

Q 11) ブランド食肉の「桜姫」の取り組みについて教えてください。

A 11) 現状では、専門チームを作り、販売形態などを調査・検討している。7月前半からコンシューマパックを販売していきたいと考えている。製品ブランド・コーポレートブランド・グループブランドを同時に広める取り組みを「桜姫」からスタートさせたい。

Q 12) 今期の豪州事業改善14億円の具体的内容について教えてください。

A 12) 今期の14億円の改善は更なる売上の拡大で計画達成を目指す。

Q 13) 豪州産牛肉について、EPAが実現した場合の影響や、実現後の施策を教えてください。

A 13) 開始時期や内容などは決定しておらず、今の段階では分からないことが多い。仮に豪州産の冷凍牛肉の関税が下がった場合は、当社の輸入冷凍牛肉の国内シェアは高い為、販売面で有利になると考えている。

Q 14) タイ産鶏肉の輸入解禁について、現在の状況を教えてください。

A 14) 中国で発生している鳥インフルエンザの影響等で、状況の見通しが立ちづらくなっている。

以上